

ヘレン・ケラー女史を迎へて

東京女子高等師範學校では四月二十六日、ヘレン・ケラー女史を迎へて講演會をいたしました。福音堂には一杯に本校、附屬高女、附屬小學校の生徒兒童が並び、教育界の先輩である本校客員、來賓も多數列席されてゐました。

幼稚園兒は福音堂前のホールに、前から先生にきいてゐる、みえない、きこえない、話せなかつた、偉いアメリカの先生を今か今かまつてゐました。午後一時半、ヘレン・ケラー女史は祕書のボリー・トムソン嬢の手に縋つて來場されました。その後之も失明の、通譯岩橋武夫氏が夫人に手をひかれて隨つて來られます。ケラー女史は地味な服に身を包んで、いかに平和さうな笑 湛え乍らホールに導かれていらつしやいます。倉橋主事が迎へてゐる幼稚園兒を紹介されました。それをトムソン嬢が女史に指話でつたへられます。ケラー女史は、一瞬打たれた様にしんぞしてお迎へしてゐた子達も達の頭をニコニコさせられてこの可愛い、歡迎に答へられたのでした。子達も達はこゝでおぎろき喜びに瞳をかがやかして奇蹟の手の愛撫をうけました。

やがてケラー女史がトムソン嬢、岩橋氏夫妻を講堂壇上に着席されます。下村校長が簡單に挨拶を女史及びトムソン嬢、岩橋氏を紹介されました。そこでまづトムソン嬢が立つて、ヘレン・ケラーがみんなにして今日に至つたかをはきくした英語で語られ、岩橋氏が通譯されます。この間ケラー女史はその左手をトムソン嬢の頬或は頸につけ、その動きによつて話を理解されてゐます。斯うして生後十九ヶ月にして、見るこゝ、きくこゝ、話すこゝの出來なくなつた可憐なヘレン・ケラーが、恩師アン・マンズフィールド、サリヴァン嬢の熱誠な獻身的な指導を、女史自身の非常な努力によつて、



まづすべての物には名前のあること、やがて他の人は指話でなく口で物を言ふ事を理解し、是非自分も口で話し度いさいふ希望を起す様になり、遂に彼女自身、アイ、アム、

ノット、ダム、ナウ(私はもう啞ではありません)と語る様になつた経過を説明されました。こゝでトムソン嬢はクラー女

史に種々な質問をされます、嬢の頬に手をあて、きいてゐる女史は「一々、發音はやゝ不明瞭ですが立派な英語で答へられるのです。トムソン嬢が「ヘレンよ、貴女は目の見えないうちを不幸だと思ひますか」「きいたのに對して」「不幸だとは思ひません、目があいてゐても本當に物を見る事の出来ない人はもつゝ不幸だと思ひます」「答へられたのです。實に深く味はれる言葉でした。

次いで女史は「唯物主義と人道主義の二つの道が皆さんの前に開かれてゐる。人道主義こそ永遠の命を以て報られる道である」「こいふ意味のメッセージを生徒児童に向つて送られました。

講演が終るに小學校児童が校歌「みがかずば」を合唱しました。女史はピアノの上に手を置いてゐて右手で正しいタクトを取つてをられました。それが終わります、生徒、児童、幼児からそれぞれ手藝、手工の作品を贈りました。女史は之を一々手にきつてニコ／＼笑ひ乍ら色々感想を述べられました。殊に幼稚園からのかはいゝ紙の鯉のぼりを、「これは鯉ですね、鯉は勇氣の象徴です」「言はれ、幼児の手になつたひもあみの箱を、「大へんよく織れてゐます」「賞め、「みなさんから贈られたこれ等の品々は私の又きないよい思出になるでせう」「喜び受けられたのです。折から壇上に咲き盛つてゐる鉢植の藤に近づかれ、手をふれ、匂を嗅いで「美しい藤です」「こゝ、私の小さい庭にあるのはこれほゞ美しくありません」「楽しんで居られました。

かくて一同の深い感激にわれる様な拍手を送りますのをニコ／＼受け乍ら退場されたのでした。

斯うして如實にクラゝ女史の風に接し、その聲をきゝまして、この奇蹟をつくつたものは奇蹟ではなく、女史自身のまじきな資質と努力とにあるのは勿論ですが、それをこりまくものゝ獻身的な熱心と力にあると、教育に携はる者として何か大きな光と力を與へられた様な氣がしたのであります。(この寫眞は東京日日新聞社の厚意によつて掲載したものであります)